

Museum Info 2016

ミュージアム・インフォメーション

平成28年度の山梨県立美術館・文学館・博物館・考古博物館の展覧会の予定をご案内します。

春

spring



博物館

武田二十四将 — 信玄を支えた家臣たちの姿 —

平成28年3月19日(土)～5月23日(月)

中部地方に巨大な領国を築き上げた戦国大名武田氏。その発展は武田信玄個人の力だけではなく、多くの家臣の活躍によって実現しました。本展では、信玄を支えた家臣として後世までその名が知られる「武田二十四将」を中心に、彼らの古文書、武具や肖像、ゆかりの寺社などに伝えられる資料からその実像にせまります。また彼らの子孫が江戸時代以降にどのような活動をしていたのかもあわせて紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



真田昌幸書状(個人蔵)



武田二十四将図



美術館



ルネサンスの巨匠 ミケランジェロ展

平成28年4月23日(土)～6月12日(日)

“神のごとき”芸術家と讃えられたミケランジェロ・ブオナローティは、石の塊から《ダヴィデ》などを彫り出した彫刻家であり、システィーナ礼拝堂に《最後の審判》など、壮大な物語を描いた画家であり、《サン・ピエトロ大聖堂》の造営などを手がけた建築家でもありました。本展は、ミケランジェロの創造の軌跡を、素描や建築設計図面、書簡など貴重な資料によって辿ろうとする展覧会です。ルネサンス期の最高峰の芸術を紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金

ミケランジェロ・ブオナローティ
《システィーナ礼拝堂天井画(クマエの巫女)のための習作》
トリノ王立図書館蔵 ©Torino Biblioteca Reale



考古博物館

お肌のキレイな縄文土器 ～一の沢遺跡と酒呑場遺跡～

平成28年4月23日(土)～6月12日(日)

山梨県で発見された縄文土器の中でも、一の沢遺跡(笛吹市)と酒呑場遺跡(北杜市)から出土した土器は表面の土肌がひとときわ細やかで、縄文人たちがいかに精選された胎土を用い、丹念に磨き込んでいたかを物語っています。山梨の良質な土が生み出した美器の面(おもて)をじっくりと堪能してみませんか。

□観覧料／無料



左:顔面把手付土器・顔面部(重要文化財/一の沢遺跡出土/縄文時代中期)
右:深鉢形土器(重要文化財/酒呑場遺跡出土/縄文時代中期)



文学館

辻嵐外 甲州の近世俳人

平成28年4月29日(金・祝)～6月19日(日)

辻嵐外(つじらんがい 1770～1845)は、江戸時代後期、文化・文政期を中心に活躍した俳人です。生まれは越前の国敦賀(現在の福井県)で、青年時に甲州の俳人、五味可都里を頼って移り住み、以後、住まいを何力所か移しながら、歿年まで甲州で過ごしました。超俗洒脱な人柄で知られ、多くの門弟を育てて後の甲州俳壇に大きな影響を与えました。現代の目からみても親しみと共感を呼ぶ作品と書画の魅力を紹介します。

□常設展観覧料(一般:320円 / 大学生:210円)でご覧いただけます



辻嵐外「きかさじとするはつ声か子規(ほととぎす)」
自画賛 軸装



博物館

よみがえる、ふるさとの宝たち — 3.11被災資料の再生 —

平成28年6月4日(土)～7月4日(月)



2011年の東日本大震災によって大きな被害を受けた岩手県陸前高田市では、「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」と市の文化財関連施設4館の資料約56万点のうち46万点の回収が行われ、ふるさとの宝を救うため全資料の応急処置・修復作業が進められています。多くを失った人々にとって、陸前高田の歴史・文化は心のよりどころとなるのが期待されています。

本展では、陸前高田市で行われた文化財レスキュー事業をご紹介しますとともに、約100点のよみがえった資料を展示いたします。ふるさとの歴史・文化が心のよりどころとなる意味を一緒に考えていただきたいと思います。

□常設展観覧料(一般:510円 / 大学生:210円)でご覧いただけます
被災した昆虫標本(上)と修復された昆虫標本(下)(陸前高田市立博物館蔵)

夏

summer



美し、やまなし、パワー！ 山梨の女性アーティストたち



鈴木美江《春宵》1990年 紙本着色

平成28年6月25日(土)～8月21日(日)

山梨県にゆかりのある女性作家の作品を展示します。明治時代の南画家・野口小蘆や、大正時代に女性初の二科会会友となった埴原久和代など、「女流」として男性作家と区別された時代に生きた女性作家の作品や歴史を紹介するほか、女性作家の立場に変化が起こり始めた戦後の作品、そしてインスタレーションなど新しい表現で現代に活躍する女性作家の作品など、個性的でパワーに満ちた約80点の作品を紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書
1917(大正6)年9月2日消印



宮沢賢治 保阪嘉内への手紙

平成28年7月9日(土)～8月28日(日)

詩、童話に独自の世界を切り開いた宮沢賢治(1896～1933 岩手県生まれ)。無二の親友であった山梨県韮崎市出身の保阪嘉内(ほさか かない 1896～1937)との交友を表す73点の手紙が、平成27年当館に寄託されました。寄託後、初の展覧会として全73通を公開し、賢治と嘉内の友情に迫ります。

□常設展観覧料(一般:320円 / 大学生:210円)でご覧いただけます



山梨のはにわ

平成28年7月16日(土)～8月28日(日)

山梨県内の古墳から出土した埴輪にスポットを当て、古代の魅力を紹介します。埴輪といえば、人や動物などをかたどったものがイメージされ、考古学の出土品の中では人気がありますが、時期や地域によって種類や作り方などに違いがあり、古墳の年代はもちろん、当時の生活の様子、さらには社会の様相まで知ることができます。夏休み期間中の開催に合わせて、子どもたちの素朴な「なぜ?」にも答えながら、埴輪からみた山梨の古墳時代について考えます。

□観覧料／無料

壺形埴輪(山梨県指定文化財/甲斐鉢子塚古墳出土/古墳時代)



医は仁術

平成28年7月16日(土)～9月5日(月)

現在世界最先端と言われている日本の医学の始まりは江戸時代にありました。日本初の人体解剖を行った山脇東洋、「解体新書」を翻訳した杉田玄白ら蘭方医を始め、伝統的な医術を担った漢方医にあっても、人々を救うために、人体がどのような構造であるかについて正しく理解する必要が広く認識され、18世紀後半にはその解明が始まったのです。

本展では、当時の希少な解剖図や医療器具等も展示し、中国から来た漢方と西洋から来た蘭学が、「医は仁術」が実践されたわが国においていかに独自に発展し、人々を救ってきたかを探ります。また、山梨における医学・医術をめぐる様々な資料も展示します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



山脇東洋作解剖図 国立科学博物館蔵



エレキテル
(国立科学博物館蔵)



国立美術館巡回展

平成28年9月3日(土)～10月10日(日・祝)

国立美術館の所蔵作品を活用し、広く国民の鑑賞機会の充実を図るとともに、美術の普及をもって地域文化の振興に資するために実施される「国立美術館巡回展」。今回は、京都国立近代美術館を中心とした国立美術館の所蔵する選りすぐりの作品を紹介いたします。竹内栖鳳や上村松園などの日本画、安井曾太郎らの洋画、さらには漆工芸、竹工、金工などの工芸。京都を中心に活躍し、近代を代表する美術家たちの作品を一堂に会する好機です。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金

竹内栖鳳 秋興(昭和二二)一九二七年
京都国立近代美術館蔵



秋

autumn

Museum Info 2016

ミュージアム・インフォメーション



北杜夫展

平成28年9月17日(土)～11月23日(水・祝)

小説家北杜夫(きた もりお)は、代表作「楡家のんびと」などの純文学作品において高い評価を得る一方で、ユーモアあふれる独特の語り口が人気を博した「どくとるマンボウ」シリーズを発表しました。『どくとるマンボウ医局記』には、1955(昭和30)年に医師として山梨県立玉諸病院(現・北病院)に勤務した経験が記されています。本展では代表作だけでなく、20代から30代にかけて同人誌に発表された作品もとりあげるほか、父である歌人斎藤茂吉や友人の小説家辻邦生や埴谷雄高ら多くの文学者や文化人と交わした書簡を展示。近代文学史に大きな足跡を残した北杜夫の生涯と文学を紹介します。

□観覧料／一般600円(480円)、大学生400円(320円) ()内は団体料金



軽井沢の別荘にて



よみがえる武士の魂 — 鎌倉・平泉と甲斐源氏の武家文化 —

平成28年9月28日(水)～11月23日(水・祝)

天皇との血脈を背景に大陸文化の香り高い京との交流を保ち、在地での地縁関係を維持し、弓馬、金採掘、治水など高度な技術を手にして各地へ進出した甲斐源氏とその末裔の活動をたどりながら、甲斐の地で育まれた武士の魂に迫ります。 □観覧料／一般・大学生600円(480円) ()内は団体料金



武田八幡宮(韮崎市神山町)



重要文化財 銅製経筒
柏尾山経塚(甲州市)平安時代
東京国立博物館蔵



ワイン 葡萄と葡萄酒

平成28年10月8日(土)～11月28日(月)



大日本物産図会 甲斐国葡萄培養図 明治時代

葡萄と葡萄酒(ワイン)は、山梨県が誇る代表的特産物です。葡萄栽培の発祥は古代にまで遡るとの伝承もあり、江戸時代には甲斐国の特産物として知られていました。また、醸造や栽培技術は、明治時代以降海外にも学び、他県に先駆けて近代化が進められました。本展では、歴史・民俗・美術の各視点から、山梨における葡萄と葡萄酒にまつわる歴史と文化を振り返ります。山梨の文化資産としての「葡萄と葡萄酒文化」を知り、より一層美味しい秋をお過ごしください。

□観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円) ()内は団体料金



葡萄図 天龍道人 江戸時代



フランスの風景 樹をめぐる物語 — コローからモネ、ピサロ、マティスまで —

平成28年10月22日(土)～12月11日(日)

時代の移り変わりと共に、絶えず変化する風景。いつの時代にあっても、樹木は静かに佇み、四季の移ろいを伝え、時の流れを見守る存在でした。本展覧会では、「樹木」というモチーフに着目しながら、19世紀中頃から20世紀にフランスで制作された風景画の変遷を辿ります。ポントワーズのピサロ美術館長、クリストフ・デュヴィヴィエ氏の監修のもと、バルビゾン派、印象派、そして20世紀に活躍した画家たちの作品まで、油彩画を中心とした約105点を展覧します。 □観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



クロード・モネ
(ヴェトウイユの河岸からの眺め、ラヴァクール(夕暮れの効果))
1880年頃 油彩、キャンバス 120×155cm 個人蔵
Photographie : Musée Camille Pissarro, Pontoise

山梨近代人物館

The Museum of
MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

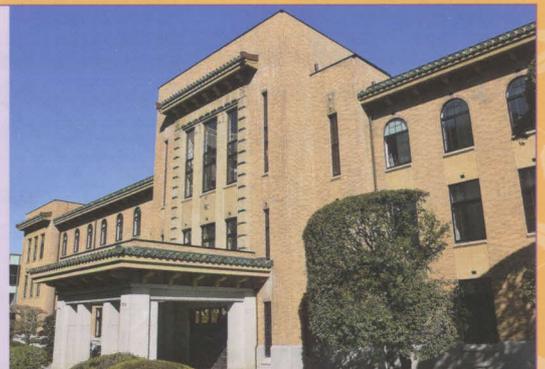
第3回展示「近代山梨を築いた人々」

第4回展示「日本の文化を興した山梨の人々」

平成27年4月、山梨県庁舎別館にオープンした「山梨近代人物館」では、平成28年4月から同年9月末まで、第3回展示「近代山梨を築いた人々」を、平成28年10月から平成29年3月末まで、第4回展示「日本の文化を興した山梨の人々」を開催します。

貴重な文化財であり、また、時代を超える記憶が刻まれた県庁舎別館で、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人たちからのメッセージを今、改めて紹介します。

山梨近代人物館 〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6番1号 県庁舎別館2階 TEL 055-231-0988
開館時間 / 午前9時～午後5時 休館日 / 毎月第2・第4火曜日、12月29日～1月3日



モーリス・ドニ
《小さなアルターニユの女性たち、沼のほとり》
1892年頃 油彩・キャンヴァス、個人蔵
Matrice Denis, Petites Bretonnes à la mare, c.1892
Huile sur toile, Collection privée



樹をめぐる物語

フランスの風景

絵画になった樹木たち コローからモネ、マティスまで...

2016年
10月22日(土) — 12月11日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 10月24日(月)、31日(月)、11月7日(月)、14日(月)、24日(木)、28日(月)、12月5日(月)
観覧料 一般1,000(840)円 大学生500(420)円 ※11月20日 県民の日は無料
()内は20名以上の団体料金、前売料金、県内宿泊者割引料金/高校生以下の児童・生徒は無料/
山梨県在住の65歳以上の方は無料(健康保険証等持参)/障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方
1名が無料/前売券は山梨県立美術館にて、9月22日から10月21日まで販売

主催 山梨県立美術館、山梨日日新聞社・山梨放送
後援 在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本、テレビ山梨、テレビ朝日甲府支局、
朝日新聞甲府総局、毎日新聞甲府支局、読売新聞甲府支局、日本経済新聞社甲府支局、
産経新聞甲府支局、共同通信社甲府支局、時事通信社甲府支局、山梨新報社、
日本ネットワークサービス、エフエム富士、エフエム甲府
協力 エールフランス航空/KLMオランダ航空、日本航空、山梨交通株式会社
企画協力 アートインプレッション



山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art



樹をめぐる物語

フランスの風景

移ろいゆく季節の中、同じ場所で静かに佇み、永い時を生きる樹木。古来、人々は樹木から恩恵を受け、生活を形作ってきました。

19世紀のフランスでは、産業化の進展に伴って失われていく自然に対する関心が高まり、風景画が人気を博すようになりました。樹木は背景の構成要素として、そして時に中心的な主題として、画家たちに想を与え、様々に絵画を彩ってきました。自然を観察し、写し出そうと努めたバルビゾン派、光や大気が見せる一瞬の表情を捉えた印象派、宗教的・詩的な観念の表現を志した象徴主義など、画家たちは、それぞれの興味関心に従い、「樹木」を用いて絵画表現の探求をおこないました。

本展では、国内外所蔵の優品約110点を展覧し、樹木をテーマにフランス絵画の変遷をたどります。

関連イベント

●記念講演会

「樹をめぐる変奏：
フランス近代絵画における風景画の多様性」

講師 小泉順也氏（一橋大学准教授）
日時 10月22日（土）午後2時～
場所 講堂（申し込み不要、聴講無料）

「英仏海峡をわたったバルビゾン絵画：
フォンテーヌブローの森からロンドンへ」

講師 安藤智子氏（法政大学非常勤講師）
日時 11月5日（土）午後2時～
場所 講堂（申し込み不要、聴講無料）

●樹木医とめぐる鑑賞ガイドツアー

芸術の森公園で樹木について理解を深めた後、展示室で作品鑑賞をします。

講師 石井誠治氏
（東京樹木医会、森林インストラクター）
日時 10月30日（日）、11月13日（日）
①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時
場所 芸術の森公園（雨天時はワークショップ室）、特別展示室（各回定員約30名、申し込み・本展チケットが必要です）

●子ども美術館「これで君も樹木ハカセ！」

芸術の森公園と展覧会場をめぐる、樹木の不思議を楽しく学びます。

講師 石井誠治氏
（東京樹木医会、森林インストラクター）
日時 11月23日（水・祝）
①午前10時～11時30分
②午後1時30分～3時
場所 芸術の森公園（雨天時はワークショップ室）、特別展示室
対象 小学生（1～3年生は保護者同伴）
（各回定員約20名、参加無料、申し込みが必要です）

●館長トーク 木の工芸

日時 11月20日（日）午後2時～3時30分
場所 講堂（申し込み不要、聴講無料）

●記念コンサート

演奏 堀澤麻衣子（声楽）
日時 11月6日（日）午後2時～2時40分
場所 1階ロビー（申し込み不要、入場無料）

●担当学芸員のギャラリー・トーク

日時 11月19日（土）午後2時～
場所 特別展示室
（申し込み不要、本展チケットが必要です）

●大人のための美術講座

ギャラリー・トーク前の気軽なレクチャーです。
講師 担当学芸員
日時 11月19日（土）午後1時～1時30分
場所 講堂（申し込み不要、聴講無料）

（イベント申し込み方法）

申し込みが必要なイベントについては、FAXまたは電話にて「樹木展イベント係」にお申し込みください。
申し込み期限は、イベントの3日前までとなります。
その際次の事項をお伝えください。
①参加希望イベント②日時③氏名④年齢（学生の方は学校名・学年）⑤電話番号（FAX番号）⑥参加される保護者の人数（こども美術館のみ）



●中央自動車道甲府昭和インターより

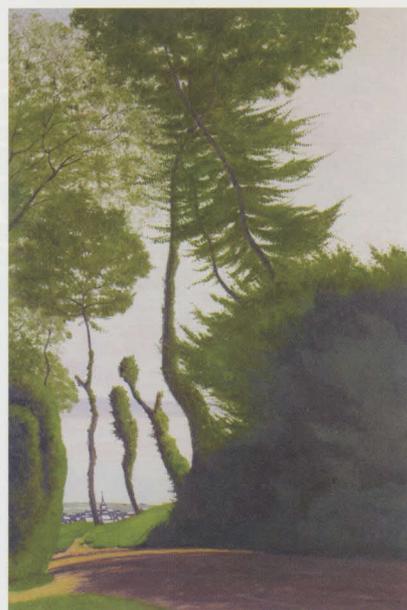
・料金を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、徳行立体南交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貫川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

●JR中央本線甲府駅より

・甲府駅バスターミナル（南口）より御勤使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韭崎駅・貫川団地各行きバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
（料金：片道280円）
・タクシーで約15分。（料金1,700円程度）

●昇仙峡より

・敷島営業所行バスで「山梨県立美術館」下車。



1 カミーユ・コロー《エルタ近くの風景》1872年 フォンテーヌブロー美術館、ヴッパータール蔵 Von der Heydt-Museum Wuppertal, Germany
2 シヤルル＝フランソワ・ドービニー《ヴァルモンドワの下車》1872年 カミーユピサロ美術館、ポントワーズ蔵 Musée Camille Pissarro, Pontoise
3 キュヌターヴドレ《嵐の後、スコットランドの急流》1875-1878年 個人蔵
4 クロード・モネ《ヴェトウイユの河岸からの眺め、ラヴァール（夕暮れの効果）》1880年頃 個人蔵 Musée Camille Pissarro, Pontoise
5 ジャン＝フランソワ・オービュルタン《海辺の松、ポルクロール》制作年不詳 オワーズ県美術館、ボーヴェ蔵 Beauvais, MUDO, musée de l'Oise ©RMN-Grand Palais / Hervé Lewandowski / distributed by AMF
6 フェリックス・ヴァロットン《オンフルールの眺め、朝》1912年 オワーズ県美術館、ボーヴェ蔵 Beauvais, MUDO, musée de l'Oise ©RMN-Grand Palais / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art
〒400-0065 山梨県甲府市貫川1-4-27
TEL 055-228-3322 FAX 055-228-3324
http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/



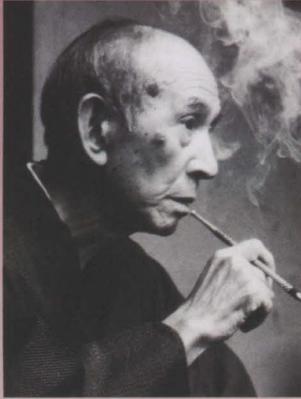
野口正章
【個人蔵】

渡辺青洲
【個人蔵】

大村主計
【個人蔵】

飯田蛇笏
【山梨県立文学館蔵】

小宮山清三
【個人蔵】



近藤浩一路
【南部町立美術館蔵】



三枝雲岱
【北杜市郷土資料館提供】



中村星湖
【山梨県立文学館蔵】



樋口一葉
【山梨県立文学館蔵】

日本の文化を興した 山梨の人々

山梨近代人物館第4回展示

■展示期間/
平成28年10月1日(土)～平成29年3月27日(月)

- 開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 / 毎月第2・第4火曜日 12月29日～1月3日
- 入館料 / 無料
- 住所 / 甲府市丸の内一丁目6番1号 山梨県庁舎別館2階
- お問い合わせ / TEL 055-231-0988 FAX 055-231-0991
<http://www.pref.yamanashi.jp/ykj/index.html>



若尾逸平

山梨近代人物館

The Museum of

MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES



日本の文化を興した山梨の人々

山梨出身の先駆者たち

日本が近代国家として歩み始めた明治時代、さまざまな分野で欧米の文化・文物が流入した。この「文明開化」に伴って、日本の社会や文化も大きな変化に見舞われていった。こうした変化のなかで、傑出した先見性で新たな社会が求めるものに着目し、日本の社会に実現させていった山梨出身の先駆者たちがいた。彼らもたらしたものは、今の私たちの社会の礎となり、現在でも息づいているのである。



ワインの醸造も行われた旧甲府城内に建設された県勸業試験場

文学界に残した足跡

山梨は日本の文学史に大きな影響や業績を残した文学者を数多く輩出している。彼らの創作における主題、そしてその作品には、山梨の自然豊かな風土が少なからず影響を与えている。そうした文学作品の数々は、現在でも多くの人々に読み継がれ、作品に描かれた物語や光景、息遣いは、今も多くの感動を私たちに伝えてくれている。



芸術の森公園に建つ飯田蛇笏文学碑

画壇に残した足跡 —山梨ゆかりの画家たち—

山梨は明治期を代表する南画家である三枝雲岱（現在の北社市出身）や、水墨画を取り入れた独特な画風を確立した近藤浩一路（現在の南部町出身）をはじめ、個性豊かな画家を輩出している。また、山梨ゆかりの作家として、女性初の帝室技芸員となった野口小蘋（大阪出身、野口正章の妻）も挙げられ、野口は数々の山水画や花鳥画などの作品を残している。彼らの作品は県立美術館や南部町立美術館で見ることができ、現在でも多くの人々に感動を与えている。



三枝雲岱「玉堂富貴図」 山梨県立博物館 蔵

◆教育普及事業のご案内◆

山梨近代人物館では、教育普及事業として、展示する人物に関する講座やイベント等を、概ね1ヶ月に1回程度開催しています。

■「飯田蛇笏」その人生と俳句

10月22日(土) 講師:井上康明さん(俳誌「郭公」主宰)

■「樋口一葉」に関する講座

11月19日(土) 講師:吉川豊子さん(山梨県立大学名誉教授)

■「野口正章」に関する講座

12月10日(土) 講師:守屋正彦さん(筑波大学教授)

■「近藤浩一路」に関する講座

2月18日(土) 講師:若林由美子さん(南部町立美術館学芸員)



山梨近代人物館

The Museum of

MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

甲府市丸の内一丁目6番1号 山梨県庁舎別館2階
TEL 055-231-0988 FAX 055-231-0991
<http://www.pref.yamanashi.jp/ykj/index.html>

JR中央線・身延線甲府駅南口徒歩5分
乗用車の場合は、防災新館地下駐車場をご利用ください(駐車無料)

